

- 問1 1901年に操業を開始した官営八幡製鉄所は、日清戦争の賠償金をもとに建設されました。この製鉄所が置かれ、のちに鉄鋼業を中心とした北九州工業地帯として発展した都道府県はどこですか。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. 岡山県 2. 福岡県 3. 広島県 4. 兵庫県
- 問2 沖縄県などが含まれる南西諸島の伝統的な家屋には、敷地の周囲に石垣をめぐらせたり、屋根瓦の継ぎ目を白い漆喰（しっくい）で固めたりする工夫が見られます。このような工夫がなされている理由として、地域の自然環境をふまえて説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 冬に吹きつける冷たい北西の季節風による室温の低下を防ぐため 2. 夏の日差しが非常に強いため、石垣によって日陰を作り、室内の温度上昇を抑えるため 3. 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため 4. 火山活動が活発な地域であり、降灰による屋根の崩落や生活への影響を防ぐため
- 問3 九州地方の5県（佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
1. 筑紫平野のような平坦な低地が広がっており、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。 2. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。 3. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。 4. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。
- 問4 北九州市の産業と人口の推移について述べた次の文のうち、1980年代以降の統計的な傾向を正しく説明しているものはどれですか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合が大幅に減少し、人口も減少傾向にある 2. 人口は1980年以降も一貫して増加し続け、鉄鋼業の出荷額も伸び続けている 3. 製造品出荷額において機械工業が消滅したため、急激な人口増加が起きた 4. 再開発によって鉄鋼業が復活し、製造品出荷額が1980年以前の水準を超えた
- 問5 九州地方の各県の産業について述べた次の説明のうち、宮崎県と福岡県の特徴を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 宮崎県と福岡県はともに農業産出額のうち米の割合が最も高く、工業については佐賀県の出荷額が九州で最大である。 2. 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。 3. 宮崎県は平野部を中心に稲作が盛んで米の産出額が九州で最も多く、福岡県は畜産が県内の農業の大部分を占めている。 4. 宮崎県は工業出荷額が九州地方の中で最大規模であり、福岡県は農業産出額において米の産出額が畜産を上回っている。
- 問6 九州地方の中央部に位置する熊本県には、阿蘇くじゅう国立公園に指定されている地域があります。この地域にある阿蘇山に見られる、火山の噴火によって形成された世界最大級の大きなくぼ地を何と呼びますか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. シラス台地 2. 三角州 3. カルデラ 4. 盆地
- 問7 九州地方の自然環境とそれを利用した産業について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 明治時代に官営の八幡製鉄所が福岡市に建設されたことで、周辺の火山から産出される鉄鉱石を利用した重化学工業が発展した。 2. 九州南部に広がるシラス台地は、火山灰が降り積もってきた水持ちの良い地質であるため、古くから大規模な稲作地帯となっている。 3. 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。 4. かつて石炭産業で栄えた筑豊地域では、エネルギー革命による需要の変化に伴い、火山の地熱を熱源とした繊維工業や食料品工業への転換が進んだ。
- 問8 九州地方において肉用牛の産出額が非常に高い背景には、南九州を中心に広がる地形的要因があります。火山噴出物が積み重なってできたこの台地は、水持ちが悪く稲作に不向きであったため、古くから畜産業や畑作が発展してきました。この台地の名称として適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 根釧台地 2. シラス台地 3. 武蔵野台地 4. 牧之原台地
- 問9 関東地方の卸売市場におけるきゅうりの出荷状況を見ると、福島県産などは夏場に供給のピークを迎えるのに対し、宮崎県産は11月から翌年5月にかけての供給量が多くなっています。宮崎県がこのような出荷時期の調整を行う主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 消費地である関東地方までの輸送コストを、冬場の方が安く抑えられるため 2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるために、栽培時期を冬に限定しているため 3. 冬の乾燥した気候を利用することで、農業の使用量を抑えた栽培が可能になるため 4. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため
- 問10 鹿児島県に広く分布するシラス台地において、その自然条件を背景に発展したこの地域の農業の特色として最も適切なものはどれですか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 一年を通じて温暖な気候を利用して、平坦な地形を活かして、冬でも雪が降らないことを前提とした稲の二期作が行われている。 2. 土地が低く水がたまりやすいため、大規模な排水設備を整えることで、日本有数の米どころとして水田単作地帯となった。 3. 地盤が非常に強固で肥沃な土壌であるため、重機を用いた大規模な小麦栽培と、大都市向けの近郊農業が中心となっている。 4. 火山灰が堆積した地層は水持ちが悪いため、稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、および肉用牛などの畜産が発展した。
- 問11 九州地方の産業統計において、金属製品の出荷額が5,000億円を超え、さらに観光やビジネスに伴う宿泊旅行者数が年間350万人を上回るなど、製造業とサービス業の両面で中心的な役割を果たしている県はどこですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
1. 宮崎県 2. 鹿児島県 3. 福岡県 4. 佐賀県
- 問12 宮崎市などの九州地方太平洋側において、夏から秋にかけての降水量が福岡市などの日本海側と比べて著しく多くなる背景として、適切な理由の組み合わせはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
1. 対馬海流の影響、南西から吹く乾燥した季節風、およびシベリア高気圧の発達 2. リマン海流の影響、日本海側から山を越えて吹き下ろす乾いた風、および移動性高気圧の通過 3. 寒流である親潮の影響、北西からの冷たい季節風、および梅雨前線の長期停滞 4. 暖流である黒潮の影響、南東からの湿った季節風、および台風の通り道にあたること